

問題は1ページからです。

1 次の各問に答えよ。

[問1] $-6 + 7 \div \frac{1}{2}$ を計算せよ。

[問2] $a + b - \frac{4a + 9b}{5}$ を計算せよ。

[問3] $3 \div \sqrt{12} \times \sqrt{8}$ を計算せよ。

[問4] 一次方程式 $x - 6 = 4x + 9$ を解け。

[問5] 連立方程式 $\begin{cases} 3x - 7y = -5 \\ x = y + 1 \end{cases}$ を解け。

[問6] 二次方程式 $2x^2 - 9x + 8 = 0$ を解け。

[問7] 次の と に当てはまる数を、下のア～クのうちからそれぞれ選び、記号で答えよ。

関数 $y = -2x^2$ について、 x の変域が $-3 \leq x \leq 2$ のときの y の変域は、

$\leq y \leq$

である。

ア 18

イ 12

ウ 8

エ 6

オ 0

カ -8

キ -12

ク -18

[問8] 次の 中の「あ」「い」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

袋の中に、赤玉が2個、白玉が1個、青玉が3個、合わせて6個の玉が入っている。

この袋の中から同時に2個の玉を取り出すとき、赤玉と青玉が1個ずつである確率は、

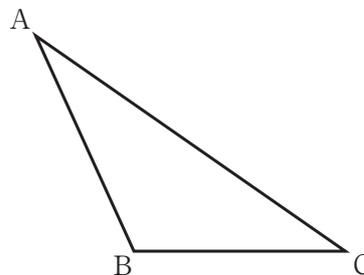
である。

ただし、どの玉が取り出されることも同様に確からしいものとする。

[問9] 右の図で、 $\triangle ABC$ は、 $\angle ABC$ が鈍角の三角形である。

解答欄に示した図をもとにして、辺 AC 上にあり、頂点 B と頂点 C までの距離が等しい点 P を、定規とコンパスを用いて作図によって求め、点 P の位置を示す文字 P も書け。

ただし、作図に用いた線は消さないでおくこと。



2

Kさんのクラスでは、先生が示した問題をみんなで考えた。
次の各問に答えよ。

[先生が示した問題]

a を正の数とする。

右の図1で、 $\triangle ABC$ は、1辺の長さが5 cmの正三角形である。

点Pは、頂点Aを出発し、 $\triangle ABC$ の周上を頂点B、頂点Cを
通って、頂点Aに一致するまで移動する。

右の図2に示した  は、長さ a cmの線分PQが、次の
[きまり]に従って、 $\triangle ABC$ の周の外側を反時計回りに1周
したときに通った部分を表している。

[きまり]

線分PQは、次の①、②をともに満たすように移動する。

- ① 点Pが次の頂点に一致するまで、線分PQは、 $\triangle ABC$ の
各辺とそれぞれ垂直である。
- ② 点Pが頂点Bに一致したとき、線分PQは、頂点Bを回転
の中心として、辺BCに垂直になるまで、反時計回りに回転
移動する。同様に、点Pが頂点C、頂点Aに一致したときにも、
線分PQは、頂点C、頂点Aをそれぞれ回転の中心として、
辺CA、辺ABにそれぞれ垂直になるまで、反時計回りに
回転移動する。

図1

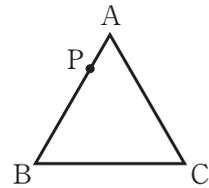


図2

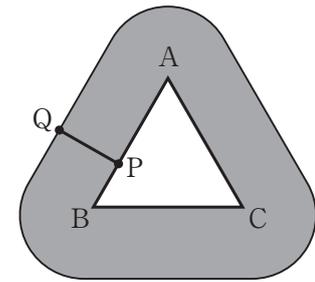


図2において、 $a = 2$ のとき、線分PQが通った  の部分の面積を求めなさい。

[問1] 次の に当てはまるものを、下のア～エのうちから選び、記号で答えよ。

ただし、円周率は π とする。

[先生が示した問題]で、 $a = 2$ のときの線分PQが通った  の部分の面積は

cm^2 である。

ア $10 + \pi$

イ $10 + 4\pi$

ウ $30 + \pi$

エ $30 + 4\pi$

Kさんのグループは、[先生が示した問題]をもとにして、次の問題を作った。

[Kさんのグループが作った問題]

a 、 b を正の数とする。

右の図3で、四角形ABCDは、1辺の長さが b cmの正方形である。

点Pは、頂点Aを出発し、四角形ABCDの周上を頂点B、
頂点C、頂点Dを通して、頂点Aに一致するまで移動する。

右の図4に示した  は、長さ a cmの線分PQが、次の
[きまり]に従って、四角形ABCDの周の外側を反時計回りに
1周したときに通った部分を表している。

[きまり]

線分PQは、次の①、②をともに満たすように移動する。

- ① 点Pが次の頂点に一致するまで、線分PQは、
四角形ABCDの各辺とそれぞれ垂直である。
- ② 点Pが頂点Bに一致したとき、線分PQは、頂点Bを回転
の中心として、辺BCに垂直になるまで、反時計回りに回転
移動する。同様に、点Pが頂点C、頂点D、頂点Aに一致した
ときにも、線分PQは、頂点C、頂点D、頂点Aをそれぞれ
回転の中心として、辺CD、辺DA、辺ABにそれぞれ
垂直になるまで、反時計回りに回転移動する。

図3

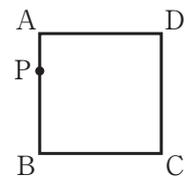


図4

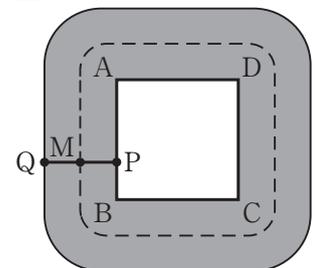
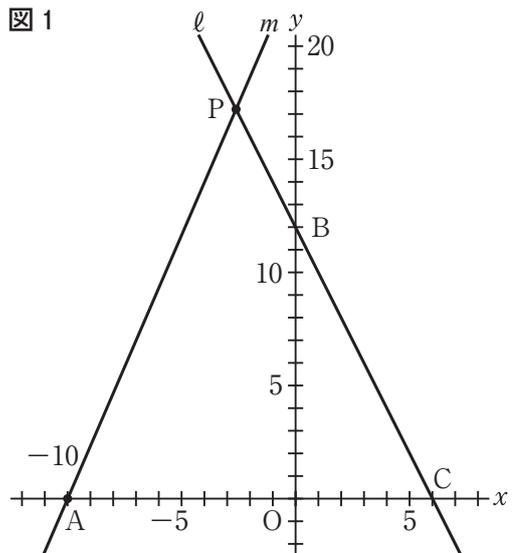


図4において、線分PQの中点をMとし、点Mが通った部分の長さを l cm、線分PQが
通った  の部分の面積を $S \text{ cm}^2$ とすると、 $S = al$ となることを確かめてみよう。

[問2] [Kさんのグループが作った問題]で、 l を a 、 b を用いた式で表し、 $S = al$ と
なることを証明せよ。

ただし、円周率は π とする。

- 3 右の図1で、点Oは原点、点Aの座標は $(-10, 0)$ であり、直線 ℓ は一次関数 $y = -2x + 12$ のグラフを表している。
- 直線 ℓ と y 軸との交点をB、直線 ℓ と x 軸との交点をCとする。
- 直線 ℓ 上にある点をPとし、2点A、Pを通る直線を m とする。
- 次の各問に答えよ。



- [問1] 点Pの y 座標が18のとき、点Pの x 座標を、次のア～エのうちから選び、記号で答えよ。

ア -12 イ -3 ウ $-\frac{1}{3}$ エ 3

- [問2] 次の ① と ② に当てはまる数を、下のア～エのうちからそれぞれ選び、記号で答えよ。

$AP = CP$ となるときの、直線 m の式は、

$$y = \text{①}x + \text{②}$$

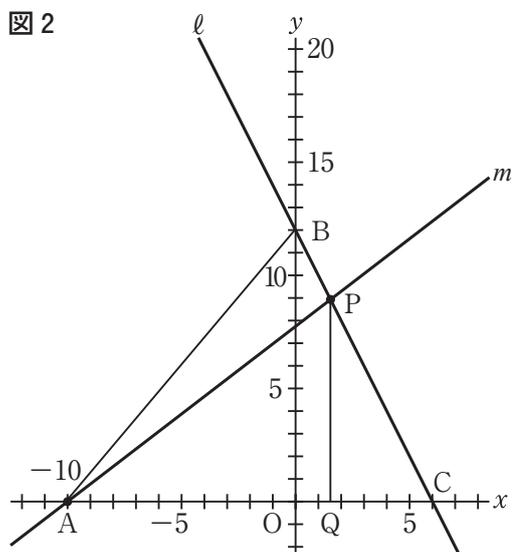
である。

① ア $\frac{1}{2}$ イ $\frac{3}{4}$ ウ $\frac{4}{3}$ エ 2

② ア 20 イ 17 ウ $\frac{40}{3}$ エ $\frac{15}{2}$

- [問3] 右の図2は、図1において、点Pの x 座標が6より小さい正の数であるとき、点Pを通り y 軸に平行な直線を引き、 x 軸との交点をQとし、点Aと点Bを結んだ場合を表している。

$\triangle APB$ の面積と $\triangle CPQ$ の面積の比が $2 : 1$ となるときの、点Pの x 座標を求めよ。



4

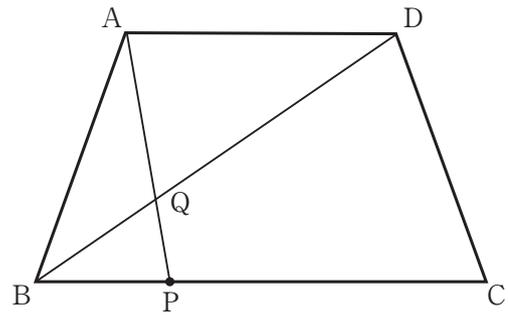
右の図1で、四角形ABCDは、
 $AD \parallel BC$, $AB = AD = CD$,
 $AD < BC$ の台形である。

点Pは、辺BC上にある点で、頂点B、
 頂点Cのいずれにも一致しない。

頂点Aと点P、頂点Bと頂点Dを
 それぞれ結び、線分APと線分BD
 との交点をQとする。

次の各問に答えよ。

図1



[問1] 図1において、 $\angle BCD = 70^\circ$, $\angle BAP = a^\circ$ とするとき、

$\angle A Q D$ の大きさを表す式を、次のア~エのうちから選び、記号で答えよ。

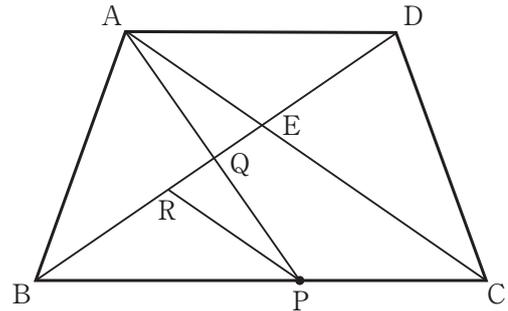
ア $(145 - a)$ 度 イ $(110 - a)$ 度 ウ $(a + 70)$ 度 エ $(a + 35)$ 度

[問2] 右の図2は、図1において、

図2

$AQ = PQ$ のとき、
 頂点Aと頂点Cを結び、
 線分ACと線分BDとの交点をE、
 点Pを通り線分ACと平行な直線
 を引き、線分BDとの交点をR
 とした場合を表している。

次の①、②に答えよ。



① $\triangle AQE \cong \triangle PQR$ であることを証明せよ。

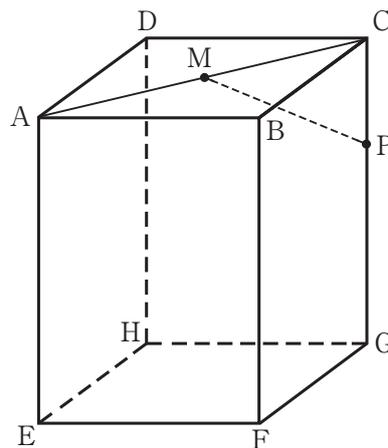
② 次の 中の「う」「え」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

図2において、 $AD = 5 \text{ cm}$, $BC = 9 \text{ cm}$ のとき、

$\triangle AQE$ の面積は、 $\triangle CDE$ の面積の $\frac{\text{う}}{\text{え}}$ 倍である。

- 5 右の図1に示した立体 $ABCD-EFGH$ は、
 $AB=AD=6\text{ cm}$ 、 $AE=11\text{ cm}$ の直方体である。
 頂点 A と頂点 C を結び、線分 AC の midpointを M とする。
 点 P は、辺 CG 上にある点で、頂点 C 、頂点 G の
 いずれにも一致しない。
 点 M と点 P を結ぶ。
 次の各問に答えよ。

図1



- [問1] 次の 中の「お」に当てはまる数字を答えよ。
 図1において、 $\angle CMP = 45^\circ$ となるときの、線分 MP の長さは、
 お cm である。

- [問2] 次の 中の「か」「き」「く」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

- 右の図2は、図1において、
 点 P を通り辺 FG と平行な直線を引き、
 辺 BF との交点を Q とし、頂点 E と点 M 、
 頂点 E と点 Q 、頂点 H と点 M 、頂点 H と点 P 、
 点 M と点 Q をそれぞれ結んだ場合を表している。
 $CP = 9\text{ cm}$ のとき、立体 $M-EQP-H$ の体積は、
 か き く cm^3 である。

図2

